

## ベンチャー精神旺盛な学生の 育成への支援活動

財団法人 大阪科学技術センター  
ATAC会員 三原恵二郎

ベンチャー精神は、学生が将来独立して起業するにせよ、企業内ベンチャーで新事業にチャレンジするにせよ、今後ますます要請される大切な資質です。

ATACでは企業に入る学生の育成支援を活動の柱の一つにしています。ATACメンバーが企業での製品開発やベンチャー企業立ち上げの経験を大学で学生に講義して学生の意識を高め、また、学生に企業の実体を体験してもらうために「インターンシップ」先の企業を紹介する活動をしています。

ATAC創立5周年(1996年)の記念事業では、大阪大学のゼミ研究生を対象に起業家精神育成を目的とした「ドリカムプラン」(ドリカム: Dream comes true)事業を3年間実施しました。また、その後高知工科大学、夙川学園でも学生の意識向上を目指した講義を行ないました。

最近、文部科学省は「産学協同現代GPプログラム」という起業家育成のカリキュラムの推進を全国の大学に呼びかけています。これに呼応して立命館大学からATACに「イノベーション戦略」「ベンチャー技術」「製品事業化」「ハイテクマーケティング」の4コースについての講座運営を委託されました。初年度の2005年度には1、2回生を対象に集中講義を、2006年度、2007年度には3回生を対象に各コースで15回にわたる講義をATACメンバー及びメンバー以外の企業の現役経営者や経験者も交えて分担し、ベンチャー起業や社内ベンチャーでの留意点及び製品事業化や

マーケティングのためのプロセスなどを経験を交えて講義しています。まだ社会経験の浅い学生にも企業活動の仕組みやベンチャー起業のための要件など、大事なところは理解してもらえたと自負しています。学生からも将来の抱負など数々の嬉しいメッセージを貰っています。

また、大学では学生に企業で研修を行なって実際業務に接する「インターンシップ」制度への参加を呼びかけていますが、ATACでもこれに対応して日頃コンタクトのある企業に「インターンシップ」での学生の受け入れを奨め、すでにかかなりの数の企業から賛同を得ており、今後実施に移される予定です。

中小企業の経営の課題の一つは優秀な学生を採用するのが難しいことですが、「インターンシップ」制度を通じて企業と学生とのマッチングが確かめられて採用に結びつけばと願っています。



▲立命館大学での講義風景